ベストクラス選定理由書

作成者：酒井久斗、池田梨穂、髙瀬沙椰、田邉奈緒美、中西麻裕、中村和憲、池田浩之

科目名称　：　幼年教育表現論 （担当教員名　：　門脇　早聴子、飯野　祐樹、中道　真由美、横川　和章）	
課　　程　：　学部	開講時期　：　後期
授業形態　：　講義・演習	授業規模　：　30 人以下
インタビュー対象教員名　：　門脇　早聴子 （実施日時　：　令和 4 年 8 月 19 日（金）10：30～11：30　；　実施場所　：　Zoom により開催）	
インタビュー対象受講者名　　受講者卒業のため、該当者なし	

【受講者の自由記述より】※一部抜粋

・教材や展開方法を体験して学べるため、来年度から働くにあたり活かすことできそう。

・他の人の意見を聞いて、自分だけでは気づかなかった発想・学びがうまれた。

・保育士として働くことを楽しもうと思えた。

【担当教員へのインタビューより】※門脇先生担当の８回分の授業について

保育者を目指す学生に、①子どもの活動を保育者が全て決めてしまうだけでなく、子どもの興味や気づきを読み取って広げる力を身につけてもらいたい、②もの・絵・身体・音楽を仲介した表現の過程を読み取ったり試行錯誤をする段階がどのように広がっていったりするのかを知ってもらいたいと考えている。そのため、身体表現に関する回(ゾウの歩き方で歩いてみましょう)では、固定概念で腕をゾウの鼻に見立てた歩き方をする人が多いが、固定概念のない子どもの表現は多様であることから「ゾウは鼻だけが特徴的なのかな？」と問うことで、ゾウに関する様々な動きを学生から引き出したり、音楽表現では「音を鳴らしたい」「どんな音なんだろう」と探求する気持ちを幼児段階で持ち始めること、それらを実際にみんなで合わせると、どうなるかを学生に体験してもらったりして、思考段階を追ってもらうようにした。

これらの体験活動はグループで行っている。グループ編成は固定されたメンバーではなく、毎回人数指定し、自由に分れるよう指示している。学生自身にグループを作らせることで意見を言いやすい雰囲気になるように、また、毎回メンバーが異なることで新しいやり取りや刺激が生まれることをねらいとしている。グループ活動の活性化のために、やり取りが少ないグループには「ここではどんなふうに思う？」「A さんの意見はこうだけど、みんなはどう？」と対話を促したり、反対に活性化しているグループには、1 つの方向に向きすぎないように「こんな方法もない？」「他のグループはこんなことをするんだって」と多様な考え方を提案したりするようにしている。

さらに、学生の考え方や価値観が広がるように学生自身が幼児期のときに受けた学びを振り返り、そこに自分がやったことがないこと・知らなかったことを再発見できるようにした。(例えば、カスタネットの正しい叩き方だけでなく、「あなたのやり方を教えて」というと子どもたちは考える。学生にも他の叩き方や自分なりの叩き方を考えてもらうようにした。)

また、事例動画(幼児の活動動画)を見ることで模擬的な保育体験をしてもらい、実際の子どもたちの姿・自分が働く姿をイメージしてもらうことで新たな気づきを生み出したり、多くの学生にとって苦手意識が強い表現活動(音楽・身体等)において、この一歩さえできたら「こんなに面白いことがあるんだよ」ということを実感できるように「自分でもできそう」という活動に取組んでもらい、楽譜やダンスができなくても表現方法はたくさんあることを知ってもらうことで保育職へのモチベーションを高められるようにしている。

【総括】

幼児の思考段階を追体験することは、専門書等では学びがたいものである。学生が今もっている思考に捕らわれず、幼児期の思考を追体験するためには教員の工夫された発問や活動内容に対し、学生ひとり一人が真摯に取組むことが大切ではないかと考える。本授業ではそれが達成されたものであることから、ベストクラスに推薦する。